

三輪眞弘《夢のガラクタ市》2つの再演をめぐって

Two Performances of Masahiro Miwa's "Trödelmarkt der Träume-Vorspiel und Lied-"

登壇者：

有馬 純寿（音楽家／帝塚山学院大学人間科学部准教授）

岡部 真一郎（音楽学／明治学院大学文学部教授）

北野 圭介（映像理論／立命館大学映像学部教授）

モデレータ：松井 茂

テーマ

コンピューターとハープのための楽曲《夢のガラクタ市～前奏曲とリート～》を、1990年の初演時に近い環境と、2009年にエミュレーションした環境で再演し、現代音楽における作品概念、演奏家（人間）とコンピューターのコミュニケーションの多様性を議論します（演奏環境の整理を2016年度に実施）。この関係性を考える端緒として、メディア技術におけるコントロール（それは管理なのか制御なのか？）をどのように定義し、理解するのかが問題となってきます。作曲のみならず演奏によるコントロール、ハードウェアのエミュレーションから垣間見える、音楽学、芸術学の新たなフェーズを検討します。



篠崎史子（ハープ）と有馬純寿（エレクトロニクス）による1990年のオリジナル版の演奏、3人の登壇者の発表、2009年のエミュレーション版を演奏の後、ディスカッションが行われた。写真はリハーサル中の三輪眞弘と篠崎史子。

ハープとコンピューターの出会い

長澤真澄の空間

S P A C E

III

Transparent Space III Masumi Nagasawa Harp Recital

1990 3月26日(月) 7 pm

東京文化会館小ホール 入場料 ¥3,500(全自由席) 電話予約: チケットぴあ Tel: 03(5237)9990
produce: t.rai collaboration: TOSHIBA EMI management: NASA Tel.: 03(263)4338 design-photo: s. watano

《夢のガラクタ市》が初演された演奏会『長澤真澄の空間 Transparent Space III Masumi Nagasawa Harp Recital』
(東京文化会館小ホール、1990年3月26日) のチラシ (Reference code: F1-IT1-57)

Trödelmarkt der Träume

Ich war heut auf dem Trödelmarkt der Träume
am Rand der Welt, da gab es allerhand :
Gestohl'nes, Weggeworf'nes und Kaputt'es,
Traumzeug aus zweiter und aus dritter Hand.
Fliegende Teppiche voll Mottenlöcher,
zerbeulte Heiligenscheine, Stern und Zopf,
Luftschlösser ohne Schlüssel, rostzerfressen,
und Puppen, einst geliebt, jetzt ohne Kopf...

Und unter all dem Plunder hab ich Plötzlich
auch unsrer Liebe schönen Traum gesehn.
Sein Gold war blind, er war zerbrochen, aber
er war es doch—und war noch immer schön.
Ich hätte ihn dir gern zurückgegeben
und hab den bleichen Kerl danach gefragt.
Er hat mich zahlos angegrinst, gehustet,
und einen unverschämten Preis gesagt.

Zwar War er's wert—trotzdem hab ich gehandelt.
Der andre schwieg, doch wurde er nicht weich.
So konnte ich den Traum nicht wieder kaufen.
Mir geht's nicht gut. Ich bin nicht mehr so reich.
Eins hätt' ich gern gewusst, als ich am Ende
mit leeren Händen abgezogen bin:
War er verschenkt—gestohlen—weggeworfen?
Mein Schönes, sag—wie kam der Traum dorthin?

(Michael Ende/ Edition Weitbrecht)

夢のボロ市

きょう、夢のボロ市へ行ってみた。
世界のはじっこにあって、いろんなものがあつた。
盗まれたもの、投げ捨てられたもの、壊れたもの、
中古の、そしてそのまた中古の夢の品。
空飛ぶ絨^{じゅうたん}絨^{じゅうたん}はイガの穴だらけ、
でこぼこの光輪は、星とおさげ髪、
鍵のない空中楼閣は、錆でボロボロ、
昔かわいがられていた人形も、今は首がない……

そしてそんなガラクタたちのなかに、突然、
ぼくらの愛の、美しい夢も発見したのだ。
その黄金色は曇っていて、夢は壊れていたけれども、
黄金のようにすばらしく—そしてあいかわらず美しかった。
できればそれをきみに返したいと思って、
蒼ざめた男に尋ねてみた。
にやりと歯のない口をあけ、男はぼくを見つめ、咳ばらいして、
恥知らずな値段を吹かけてきた。

なるほどそれだけの価値はある—けれどもぼくは交渉した。
敵はだまっていた、が、折れなかった。
だから夢は買いもどせなかった。
風向きがよくないんだ。もうそんなに豊かじゃないんだ。
結局すごすご手ぶらで引き返したが、
ひとつ知りたいことがあつた。
あれは贈られたのか—盗まれたのか—投げ捨てられたのか？
ねえ、きみ、教えて—どうやってあの夢があそこにまぎれこんだのか？

(岩波書店：「夢のボロ市」より 丘沢静也 訳)

「夢のガラクタ市 ～前奏曲とリート～」はハーピスト、長澤真澄の為に書かれた。その副題にも示されているように前奏曲とそれに続くリートによって構成された二部からなる小品である。

この作品のために書かれたコンピューター・プログラムは実際のハーピストに加えてさらに二台の架空のハーブ（とその演奏）をシュミレートすると同時に、サンプルされた街頭の雑音や子供達の声などの日常音の再生を制御する。一方これらのファンクションはさらに演奏時におけるハーピストからのタイミング・シグナルによってコントロールされ、一人の奏者による“合奏”を可能にする。

作曲者は、空間のインсталレーションなどで試みられているような、ある空間に置かれた“もの”とそれを取り囲む環境とが互いに意味を与え合い、またその意味を変質し合うような「相互干渉作

用」をこのコラージュ風の小品の中で実現させることを意図した。この「夢のガラクタ市」はそのことから、それぞれ個性を持った音素材がその置かれた位置関係に多く依存し、互いを相対化していくという意味で「視覚的」な要素の強い作品だと考えている。

なお、タイトルやそれに伴う題材（M・エンデ）は長澤真澄の提案によるものである。（M. M.）

三輪真弘 プロフィール

1958年東京に生まれる。1974年都立国立高校入学以来、友人と共に結成したロックバンドを中心に音楽活動を始める。1978年渡独、国立ベルリン芸術大学に入学、作曲をイサン・ユン氏に師事。1985年より国立ロベルト・シューマン音楽大学（デュッセルドルフ）に編入学、作曲及びライブ・エレクトロニック音楽をギュンター・ベッカー氏に師事する。1988年同大学卒業。現在は作曲科非常勤講師として電子・コンピューター音楽の理論及び実技を同大学で教える一方、作曲家として活動を続ける。

国際ダルムシュタット夏期講習会、オーディオ・アート・フェスティバル（デン・ハーグ）、国際コンピューター音楽会議（ケルン）、ヨーロッパ'89（ブリュッセル）などを初めとするヨーロッパ各地の音楽祭で作品が演奏されている他、コンサートの企画（ベルリン、ケルン）やケルンにあるコンピューター音楽スタジオ設立を目指すG I M I Kの代表としても積極的に活動が続けている。1985年ハムバッハー国際作曲コンクール佳作入選。1989年第10回入野賞受賞。